

会 告

第 89 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和50年 1月17日（金）

本会は第89回講演大会を昭和50年 4月 4日（金）、5日（土）、6日（日）の3日間東京大学（東京都文京区本郷7-3-1）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和50年 1月17日（金）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1講演につき講演15分、討論5分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承ください。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（次ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限

講演申込みは1人3件以内といたします。
6. 申込方法

本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、本誌クリーム頁末添付）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和50年 1月17日（金）17時着信まで
 申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
 （社）日本鉄鋼協会 編集課

講演分類

製		鉄				製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製 鉄 基 礎	原 料 ・ 燃 料	高 炉 製 鉄	特 殊 製 鉄	フ ェ ロ ア ロ イ	製 鉄 耐 火 物	製 鋼 基 礎	溶 解 ・ 精 錬	造 塊	製 鋼 耐 火 物	塑 性 加 工	熱 処 理	表 面 処 理 ・ 防 食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄 造	粉 末 冶 金	溶 接	金 属 物 理	金 属 組 織	鋼 の 性 質	鉄 鋼 材 料	鑄 鉄 ・ 鑄 鋼	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 自 動 制 測 御	I E そ 一 般 の 技 術 他 術	そ の 他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より20日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1枚5円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5枚 95円, 20枚 215円, 40枚 375円

10枚 135円, 25枚 270円, 50枚 500円

15枚 190円, 30枚 295円

100枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

昭和50年度第90回(秋季)講演大会案内

1. 期 日 昭和50年10月1日(水), 2日(木), 3日(金)
2. 場 所 北海道大学

会費納入についてのお願い

昭和 50 年分会費の納入期がまいりました。本会の事業は会費を主な財源として行なわれますので、会費は毎年12月に1年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

	会費年額	記	入会金
正 会 員	5,400 円 (従前 4,000 円)		600 円 (従前 400 円)
学生会員	2,700 円 (" 2,000 円)		300 円 (" 200 円)
外国会員	6,000 円 (" 4,500 円)		600 円 (" 450 円)

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

お知らせ

1. 会費および入会金の変更について
昭和 49 年 11 月 3 日開催の臨時総会において、上記のとおり変更になり、明 50 年 1 月から適用することになりました。
2. 会費納入方法の変更について
昭和 49 年 9 月 20 日開催の評議員会において、会費は毎年 12 月に翌年 1 カ年分を前納していただくことになりました。(従来は、1 カ年分を前納することを原則としてはおりましたもの場合によつては、12 月と 6 月の 2 回に分け、おのおの 6 カ月分を前納することもできることになっていました。)

欧文誌「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」の月刊発行についてのお知らせ

本会では欧文誌 Transaction of The Iron and Steel Institute of Japan (Transactions ISIJ) を昭和 50 年 (1975 年) 1 月から月刊誌として刊行することになりました。本誌は昭和 36 年 (1961 年) に季刊で「Tetsu-to-Hagané Overseas」として創刊後、昭和 41 年 (1966 年) より現在の名称に改め、隔月刊となり今日にいたつたものであります。

最近本誌への投稿原稿数が増加しております。これは国内、国外からの投稿によるものであることはもちろん、本会の共同研究会をはじめ各研究委員会への成果発表の働きかけなどの編集活動の強化の現われと考えられます。

とくにわが国の高い鉄鋼生産技術に関係した学術、技術論文、Review 論文などは広く国際的な注目を集めています。編集委員会は今後も積極的にこのような記事の掲載につとめます。

本誌の海外読者は発刊以来着実に増加しており、掲載論文の引用される機会もほかに増えてきております。これらは本誌が国際誌としての評価を高めていることを示すものと考えられます。

Transaction ISIJ を月刊誌とするにあたり、ますます本誌の権威を高め、サーキュレーションをより広めるための活動を積極的に推進する方針であります。このために、斬新な優れた Original Paper を多数掲載する必要があります。会員各位が研究成果を奮つてご投稿下さることを期待しております。

本会では「鉄と鋼」と「Transactions ISIJ」の両誌を希望される会員に限り「特別料金」を設けておりますので、月刊誌移行を機に新たに「Transactions ISIJ」をご愛読いただくことを合せて期待いたします。

なお、本誌の印刷作業の簡素化のため図面 (含写真) は著者が提出した原稿をそのまま整版いたしますので、別記に従つて原稿の作成をお願いします。

図面ならびに写真原稿の作成について

1. 著者の提出した図面原稿をそのまま整版するので、すべての文字、数字記号は「lettering set」か「press-on (wax-back) lettering」を使って黒で鮮明に書く。手書き原稿は採用しない。
2. 図面は所定の用紙 (21 cm×16 cm) を用いること、またはこれに準ずる大きさの glossy prints で提出してもよい。
3. 図面の墨入れは、たとえば 21 cm×16 cm の図では太線を 0.5 mm~0.4 mm、細線 0.2 mm、文字の高さ 5 mm を標準とする。文字は 18 ポイントボールドを使用する。タイプ文字は使用しないこと。
本図は刷上り 11 cm×8 cm (250 words に相当) に縮尺される。
4. グラフは四方枠入れをし、図中適当な目盛線を入れる。両軸には変数の名称、記号、単位をつける。
5. 写真は原則として原寸とし、数葉をもつて 1 写真とするときは余白なくきちんとはり、写真中に a, b... などの記号をつける。
6. 1~5 に従わない原稿は書き直しを求めることがある。

北 陸 支 部 講 演 会
 昭和 49 年度研究発表会プログラム

日 時 昭和 49 年 12 月 19 日 (木)

場 成 (株)不二越 (〒930 富山市石金町 20 電話 0764 (23) 5111)

8:40~8:50 開会の挨拶

第 1 会 場

8:50~10:50

1. 鍛造白鑄鉄の材質特性に及ぼす Cr 含有量の影響
大平洋金属・富山 佐藤祐一郎, 松倉 清, ○千石 三良
2. 鍛造白鑄鉄の溶接性について
大平洋金属・富山 佐藤祐一郎, 松倉 清, ○堀 直文
3. 鑄鉄に対する炭化物生成元素の接種効果について
富山工専 ○平木 道幸, 高木 修, 神代 秀治
4. 鉄鉄溶解における砂鉄添加の影響について
富山大工 養田 実, ○島田 俊
5. ESR 溶解した鍛造白鑄鉄の材質特性について
大平洋金属・富山 佐藤祐一郎, 松倉 清, ○塚本 栄紀
6. ESR により溶製した軸受鋼の品質
不二越・軸受 広木 清利

11:10~12:20

7. 回収砂添加による自硬性鑄型の特性について
富山大工 養田 実, ○中田登志夫
 8. 炭材混合ペレットの焼成時の膨脹性におよぼす自己発生ガスの影響
富山大工 ○岡本 謙一, 島崎 利治, 池田 正夫
 9. 硫酸滓ペレットの脱硫に関する基礎的研究
富山大工 池田 正夫, ○寺山 清志
 10. 繰返し熱サイクルによる鉄変形
金沢大教養 竹村 松男, ○馬替 敏治
- 昼 休 —

13:00~15:20

11. 鑄鉄の質量効果と実体強度での焼入焼もどしにおける保持時間の影響
大阪電通大 ○水野 兼雄, 金持 昭治, 赤星通次郎
12. 鑄鉄の肉厚差のある接合部近傍の実体強度について
大阪電通大 ○水野 兼雄, 金持 昭治, 赤星通次郎
13. フェロシリコン中の含有水素について
吳羽製鉄 山口 信由, ○長谷川 実
14. 鉄鋼中の全窒素定量法 (残渣処理の省略について)
日本ステンレス直江津 岩島 正高, 伊予田 進
15. 電子励起X線分光分析法による TiC 粉末の酸素定量における分析精度について
不二越・技術 蜂須賀武治, ○木村 文則, 深田 泰彦
16. 還元気化-冷原子吸光法による微量水銀の定量における二, 三の問題点について
日本曹達・高岡 小田仲 彬, 井戸原 満, 堀江 良男, ○藤田 実
17. 新しい重金属固定剤によるカドミウムの稲への移行防止に関する研究
日本曹達・高岡 小田仲 彬, 広野 好彦, 井戸原 満, ○堀江 良男

第 2 会 場

8:50~10:30

18. 軸受鋼の転動面に起きる損傷について
不二越・技術 菅原 一人, 永田 寛, ○石原 孝夫
19. SKD 11 系冷間ダイス鋼における ESR 材と電気炉脱ガス材の比較
日本高周波・富山 井上 茂保, ○保前 正夫
20. 低温ガスの浸炭窒化 (表面生成層とその摩耗特性) 不二越・工具 山住 海守, ○吉本 隆志
21. SKH 9 の焼入れ温度, 保持時間と結晶粒度の関係
日本高周波・富山 安井 憲明
22. SKH 9 の熱処理かたさに及ぼす化学成分の影響
日本高周波・富山 松本 忠博

10:40~12:20

23. 高速度鋼の被研削性について
不二越・東富山 北野 治一, 上田 保, ○田中 康夫
24. 粉末高速度鋼の切削試験
不二越・技術 川原 蕃, ○宮野 一吉, 金山 満男
25. 鑄型の高温性質の鑄造応力に及ぼす影響について
富山大・工 養田 実, ○斎藤 修一
26. 青銅鑄物の振動特性について
富山大・工 養田 実, ○水岡 誠史